

年金基礎実務研修（基本編）

研修目的・ゴール等	年金にかかる基礎知識・実務知識・ノウハウ等を活用し、業務が実践できるようになる ・年金にかかる基礎知識・実務知識・ノウハウ等を理解し、説明することができる
想定受講対象者	信用事業部門の担当者および新任管理者
適正人数	推奨：30名（上限：40名まで）
研修日程	1日（9：30～16：30）
研修講師	経済法令、農林中金アカデミー、服部年金

【研修プログラム】

			10			11				12			13			14			15				16			17
研修 内容		事前課題問題の採点と解説 開講挨拶・オリエンテーション				講義（演習問題を含む） ・老齢厚生年金 ・老齢基礎年金 ・公的年金の基本		*適宜休憩		（昼食）						講義（演習問題を含む） 繰上げ・繰下げ ・在職老齢年金 ・障害年金 ・遺族年金 ・ねんきん定期便 ・年金請求手続き		*適宜休憩					理解度確認テスト	まとめ・閉講挨拶		
時間	10	10				130				60						180							20	10		

事前課題	あり	◇事前課題問題の実施（当日持参）
事後課題	なし	

- ★ 本研修プログラムは、研修ゴールの達成に向けて、必要と認識した時間配分例。研修の開始時刻・終了時刻は、県域の実状等に応じて、適宜変更されたい。
- ★ 研修時間を延長する場合は、事前に講師と調整のうえ、適宜講義・ワーク等の拡充を検討されたい。一方、研修時間の短縮については、研修効果が低下するため推奨しないが、事情により短縮する場合は、原則30分以内までとし、事前に講師と調整のうえ、短縮を検討されたい（不明な場合等は、NCAまでご照会願いたい）。
- ★ 本研修プログラムは、年金基礎実務研修（基本編）のみ実施する場合の内容。年金基礎実務研修（応用編）を含めて2日間で実施する場合、本研修の学習項目や時間配分等が変更となるため、事前に講師に確認されたい。
- ⇒ 「公的年金の基本」の講義時間拡大、「在職老齢年金」「障害年金」「遺族年金」「年金請求手続き」の講義繰り延べ（2日目に講義）、「演習問題」の追加・時間拡大、情報交換の設定等

年金基礎実務研修（応用編）

研修目的・ゴール等	選ばれ続ける J A になるために、年金にかかる基礎知識・実務知識・ノウハウ等を活用し、業務が実践できるようになる ・年金にかかる基礎知識・実務知識・ノウハウ等を理解し、説明することができる ・年金業務の実務対応に向けて、必要な行動を明確化することができる
想定受講対象者	信用事業部門の担当者および新任管理者 (年金基礎実務研修（基本編）を受講済みの方)
適正人数	推奨：30名（上限：40名まで）
研修日程	1 日（9：30～16：30、年金基礎実務研修（基本編）とセットで2日研修として実施することを想定）
研修講師	経済法令、農林中金アカデミー、服部年金

【研修プログラム】

		10		11		12		13		14		15		16		17		
研修内容	開講挨拶・オリエンテーション	講義（演習含む） ・働き方と年金		講義（演習含む） ・遺族年金 ・障害年金		（昼食）		ケーススタディ①（年金計算とアドバイス）		ケーススタディ②（ねんきん定期便の活用）		ケーススタディ②（続き）	講義 ・税金 ・マクロ経済とスライド ・年金請求手続き	ケーススタディ③（お客様への手続きアドバイス）	理解度確認テスト	行動計画書の作成	まとめ・開講挨拶	
時間	10	60		70		60		30		30		15	50		20	20	20	5

事前課題	なし
事後課題	なし

- ★ 本研修プログラムは、研修ゴールの達成に向けて、必要と認識した時間配分例。研修の開始時刻・終了時刻は、県域の実状等に応じて、適宜変更されたい。
- ★ 研修時間を延長する場合は、事前に講師と調整のうえ、適宜講義・ワーク等の拡充を検討されたい。一方、研修時間の短縮については、研修効果が低下するため推奨しないが、事情により短縮する場合は、原則30分以内までとし、事前に講師と調整のうえ、短縮を検討されたい（不明な場合等は、NCAまでご照会願いたい）。
- ★ 本研修プログラムは、年金基礎実務研修（基本編）を実施後、年金基礎実務研修（応用編）を実施する場合の内容。本研修を実施する場合、「基本編」の研修プログラムは学習項目や時間配等が変更となるため、事前に講師に確認されたい。
- ⇒ 「公的年金の基本」の講義時間拡大、「在職老齢年金」・「障害年金」・「遺族年金」・「年金請求手続き」の講義繰り延べ（2日目に講義）、「演習問題」の追加・時間拡大、情報交換の設定等